



制度が変わっても、園児たちはいつもにこやかに

静波保育園の指定管理者制度がスタート

静波保育園は、1年間の引き継ぎ保育を終了し、今春から指定管理者である学校法人榛原学園に園の運営と管理を委託しました。委託期間は平成34年3月31日までの10年間です。公立と民間のそれぞれの良さを引き出すことで、保育の質とサービスの向上を図っていきます。

問い合わせ 幼保支援課 福代 ☎0075

この制度の導入目的は、「公の施設」の管理運営に民間事業者の経営手法を取り入れることにより、運営経費の削減を図り、市民に対して今まで以上に良質なサービスを提供することにあります。

「保育サービスの充実・向上」民間事業の経営で培ってきた経験や手腕を生かして、延長保育や土曜日の希望保育、低年齢児や障がい児の受け入れ、一時預かりなどに柔軟に対応し、公立保育園が実施困難な各種保育サービスの推進が期待されます。

「安定的な保育の実施」民間事業者が雇用主となることで保育士の異動がなくなり、園児一人一人の個性や特徴を理解し、保育士全員で入園から卒園まで子どもたちを見守ることができるので、安定的な保育が実施されます。

導入によって変わること、変わらないこと

「変わる点」人件費を含めて、市から指

定管理者へ運営経費を支払います。

▼市保育士は他園に配置転換し、新たに指定管理者が雇用了保育士が配置されます。

「変わらない点」市は、保育園の設置者として、管理者責任を負います。

▼保育料は、市が算定基準に基づき決定します。

▼入園に関する資格確認や手続き、保育料の徴収は、市が行います。

引き継ぎ保育の実施

24年度からの導入に備え、園児や保護者の不安を解消するとともに、制度導入後の管理運営が円滑に指定管理者へ移行できるように、静波保育園では23年4月から1年間の引き継ぎ保育を実施しました。

市採用と指定管理者採用の保育士と一緒に保育に取り組み、園の行事をはじめ市の保育内容を把握してもらうことがねらいです。また、引き継ぎの具体的な内容と方法を検討・決定するための「静波保育園連絡会」を毎月開催するなど、24年4月からの管理運営委託の開始に向け、入念に準備を行いました。

さらなる保育サービスの向上に向けて

導入から約3カ月が経過した静波保育園では、園児たちが毎日元気に過ごしています。市では今後、全保護者を対象としたアンケートを実施するとともに、1年ごとに指定管理者から提出される実績報告書などにより評価し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行います。

今後は、あおぞら・細江保育園にも順次、指定管理者制度を導入して(表2)、公立・私立双方の優れた点の相乗効果による保育サービスの向上に努めていきます。

(表2) 他保育園の指定管理者制度導入スケジュール

園名	24年度	25年度	26年度	27年度
あおぞら保育園	委託先の選考・決定	引き継ぎ保育	運営委託	
細江保育園		委託先の選考・決定	引き継ぎ保育	運営委託

(表1) 園児の年齢別保育の状況

種別	0~2歳	3~5歳	合計	
13年度	公立	158人	697人	855人
	私立	27人	68人	95人
	計	185人	765人	950人
24年度	公立	212人	482人	694人
	私立	36人	78人	114人
	計	248人	560人	808人

少子化や核家族化の進行、女性の社会参加の増加や就労形態の多様化など社会環境の変化に伴い、近年の子育て環境にも変化が見られます。本市の保育園においても、園児の総数が減少する一方で、低年齢児(0~2歳)の入園は増加しており(表1)、保護者からは多様な保育や、きめの細かい保育サービスへの対応が望まれています。

保育園のあり方を検討

園の運営経費を増加させずに、多様化する要望に対応するため、市では平成20年度から検討を行ってきました。20年度は、保護者会をはじめとする関係団体から選出さ

れた委員などで構成する「保育園のあり方を考える懇談会」を設置し、市立保育園のあり方や民営化についての協議・検討を実施。平成21年3月、民間委託の推進と早期導入を含めた「市立保育園のあり方についての基本計画」の策定を要望する意見書が懇談会から市長に提出されました。

指定管理者制度の導入と目的

意見書を受けて、21年度に市職員と保育士などで構成する基本計画策定委員会を開催し、「牧之原市立保育園の運営に関する基本計画」を策定しました。民間委託の実施に当たっては、▽指定管理者制度を採用する▽今後、園舎の新築整備を実施する静波・あおぞら・細江保育園について、24年度から順次1園ずつ同制度を導入することになりました。22年度には、静波保育園の指定管理者の選定を実施。市指定管理者選定委員会の審査や市議会の議決を経て、学校法人榛原学園を指定管理者として決定しました。23年3月には、「市立静波保育園の管理に関する基本協定」を締結し

インタビュー

1年間の引き継ぎ保育の感想や、4月からの静波保育園の様子などを保護者会長と園長に聞きました



静波保育園 保護者会長 釜野 真希さん (杏珠ちゃん(左)・香凛ちゃん(右))

静波保育園には、静波西保育園との合併後から在籍している先生が大勢いたので、引き継ぎ保育で違和感や不便を感じたことは、ありませんでした。現在、夏祭りの準備を進めています。役員として行事の話し合いや決め事をすすめる際に、何の支障もなく今までどおり先生方に頼ることができているのは、この1年間の引き継ぎ保育があったからこそだと、思います。

「ここが変わった」という点などについては、現時点ではまだ分からないというのが正直な感想です。今後、さまざまな行事を行っていくうちに、見えてくることだと思います。

私の子どもは双子のため先生を困惑させることが多いのですが、4月の時点で、双子の一人一人の性格を把握している先生が学年に1人でもいてくれることで、とても安心できました。

来年度以降も先生方のメンバーが変わらないということは良いことだと思います。



静波保育園 園長 向笠 恵子

21年4月に静波と静波西の2園が統合され、静波保育園がスタート。新園舎での保育、さらには延長保育や土曜保育、一時保育などに試行錯誤で対応してきた先生たちは、本当に大変だったと思います。引き継ぎ保育を実施する中で、対応方法を教えてもらい、今後の保育対策を考えることができました。

市の保育理念「子ども一人一人を大切に、保護者からも愛される保育園を目指す」の下、公立保育園と共に市の子どもたちの健やかな成長のお手伝いをしていきます。決められた経費の中で運営していくためには、保育以外にも子どもたちの笑顔と保育士のやる気に救われています。やはり、「子どもの笑顔」は私たち保育士が一番の宝です。他県の24時間保育園をはじめ、民間の保育園・幼稚園で経験を積んだ保育士や、新しい保育を学んだ若い保育士たちが、当園を自慢できる園にしたいと意気込んでいます。今後も研修を重ね、質の高い保育を目指していきます。